

2015年ネパール地震からの復興

JICA・GRIPS・建研共催 国際シンポジウム

ー技術協力を通じてより良い再建を (Build Back Better)

シンポジウム和文版②

趣旨：開発途上国では、地震による被害が続いています。2015年4月25日に発生したネパール・ゴルカ地震による被害に顕著に見られるように、その大きな原因は、ぜい弱な建築物や住宅の倒壊です。建築研究所国際地震工学センター(IISEE)は、政策研究大学院大学(GRIPS)及び国際協力機構(JICA)、また国連教育科学文化機関(UNESCO)と連携して、地震工学に関する国際的な研修や研究を実施しています。その成果に基づき、同地震からの復興のために、どのような地震対策を将来に向けて構築すべきかを提言し、加えて復興の最新情報を広く発信する場を、ネパール政府復興事業担当省庁の関係者が JICA による研修来日機会に合わせ設けます。

(本シンポジウムは、国際協力機構(JICA)、政策研究大学院大学(GRIPS)及び建築研究所(BRI)との共催で実施します)

日時：2015年11月5日(木) 午前9時15分～12時00分 受付8:45より (原則事前申込制)

会場：政策研究大学院大学 1階想海楼ホール 東京都港区六本木(下図参照) 定員：250名 **入場無料**

プログラム

司会：政策研究大学院大学

・主催者挨拶 9:15～9:30

坂本 雄三 建築研究所理事長
増山 幹高 政策研究大学院大学副学長

9:30～10:20 (各25分) 基調講演

・基調講演1: 楠 浩一 東京大学 地震研究所准教授
(日本建築学会ネパール地震調査団長)

ネパール地震の被害の概要とその分析

・基調講演2: Shambhu K. G. ネパール都市開発省局長
(前 DUDBC:都市開発建築局長)

ネパール地震からの復興：現在の課題とイニシアティブ

10:20～10:40

横井俊明 建築研究所 国際地震工学センター長

建研の耐震分野での技術協力と国際地震工学研修

休憩 (10:40～10:50)

10:50～11:55

・パネルディスカッション：**ゴルカ地震からの復興方策
～ より良い復興のために ～**

モデレータ：JICA または 安藤尚一 (政策研究大学院大学 GRIPS 教授)

パネリスト：

(GRIPS 又は JICA)

ネパール政府 連邦地方開発省 (MOFALD)

ネパール政府 内務省 (MOH)

ネパール政府 都市開発省 (MOUD)

バクタプール市

ブダニルカント市

・おわりに：(11:55～12:00)



カトマンズ市内の地震被害:9階建と6階建レンガ造の世界遺産(2015年6月)



2015年ネパール地震前のダルバール広場(2006年10月)



政策研究大学院大学位置図

申込:



<http://goo.gl/forms/zz2qSkAxpT>

連絡先: Tel: 03-6439-6214, GRIPS 黄俊揚(マイケル)、安藤

当日参加可能ですが同時通訳機器が限られていますので、できるだけ事前申込み(11月1日まで)をお願いします。